

平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

1. 学校概要

学校名 名張市立薦原小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

所在地 〒518-0606
三重県名張市薦生1595番地

E-mail g01_e-komo@nabari-mie.ed.jp

Website _____

児童生徒数 男子 62名 女子 51名 合計 113名
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

本校は本年度、以下のようなテーマで各学年において、ESDカレンダーを作成し、身近な環境に目を向け学習を進めた。

1年「わたしだいすき，ともだちだいすき，がっこうだいすき」

2年「わたしだいすき，ともだちだいすき，こもはらだいすき」

3年「薦原の自然や人から学ぼう～体験・発見・学びあい～」

4年「見つめよう，私たちの自然・地域・人権」

5年「私たちの住みよいくらしを考える」

6年「伝えよう，私の未来，私たちの未来」

多くの地域のゲストティチャーを招き，体験活動を重視してきた。

伝え合って学ぶことをテーマに，自分の体験したことや調べたこと，そして，考えたことなどを，ICTを使いわかりやすくみんなに表現することを重視した。

4年生の実践記録「薦原の自然について考える」

○ ギフチョウ観察 4月16日

伊賀ふるさとギフチョウネットワークの方々を講師としギフチョウの観察へ行った。途中で見つけた動植物について児童たちは講師の先生に積極的に質問していた。(例：セイヨウタンポポとニホンタンポポの違い，スイバなど食べられる野草があることなど) 春ということもありたくさんの動植物を見つけることができた。ギフチョウの生息地に着くと，たくさんのギフチョウを見つける事ができた。加納さんたちには，観察につれてきていただいただけでなく，問題も出していただいた。内容は昆虫について基本的なものからギフチョウや薦原に生息している昆虫のことなど計20問ほどだった。最後にギフチョウが増えてきているのは薦原地域のたくさんの人々がギフチョウを守ろうとしているからであるというお話をしてもらって観察会を終えた。

○ ギフチョウの卵観察 5月7日

4月の観察に続いて伊賀ふるさとギフチョウネットワークの方々といっしょにギフチョウの卵観察へ行った。出発前にギフチョウの食草であるカンアオイについての説明を受けた。前回同様に道中に見つけた動植物について質問しながら観察地点へ向かった。カンアオイの卵が観察できる場所に着くと児童たちはカンアオイの葉を一枚一枚慎重に裏返しながら卵を探していった。そして数カ所で見つける事ができた。

○ ニホンハナダカバチ観察 6月10日

絶滅危惧種のニホンハナダカバチの観察を行った。場所は小学校の砂場である。また，加納さんたちと観察を行った。ニホンハナダカバチの雄雌の見分け方や巣の作り，食べる物など様々な生態を教えてもらい観察で確かめる事ができた。児童たちから「なんでこの砂場に巣をつくったのか。」という質問が出てきた。その質問に対して講師の先生は「柔らかい砂が必要で，この砂場がちょうどよかったから」と答えてくれた。

その後，砂場の観察を続けている児童から，「ニホンハナダカバチは黄色のものによく集まってくるみたいなので，黄色の色が好きではないか」という課題が出された。

5年生の実践記録「米づくり」

○ 田植え 5月7日

公民館のボランティアさんの田をお借りし田植えを行った。1日には、お米についてお話を聞き、田植えに期待を膨らませていたようで、当日の朝はみんなワクワクしている様子だった。田につくと地域の方に教えてもらいながら、一本一本丁寧に稲を植えていった。はじめは、慣れない手つきで恐る恐るであったが、徐々にスムーズに植えることができるようになっていった。歩きにくい泥の中で、バランスをくずしながらも頑張って植えることができた。稲の生長とともに関連する活動を組んでいった。

○ 田んぼの生き物調査 6月4日

雨のため延期した観察会であったが、この日は晴天にめぐまれ実施することができた。子どもたちはJAの方から話を聞いた後、元気いっぱい田んぼに向かった。田んぼではカエルやタニシなどたくさんの生き物を見つけてはうれしそうに採集していた。また、教室に戻ってからは、細かい部分までよく見て観察していた。生き物調査で学習した上、たくさんお土産をもらって、とてもうれしそうにしていた。これからも、生き物調査を通して環境についての学習を深めていった。

○ かかし作り 7月9日

地域ボランティアの方々に来てもらって、かかし作りをした。漢字で「案山子」と書くことや、方言で「おどし」ということを教えてもらった。作業中は慣れないカッターナイフやのこぎり、金づちを使って一生懸命取り組んでいた。伝統的な形もあるが、動きのある場面を表現した楽しい感じがする案山子も見られた。出来上がった案山子は教室前の廊下に展示して他の学年にも見てもらった。6年生は昨年度作った案山子と比べながら、4年生は来年度自分たちが作る案山子のモデルとして見ることができた。

○ 稲刈り・田んぼの生き物観察 9月11日

田植え、かかし作りと1学期に取り組んできた稲が実り、待ちに待った稲刈りを行った。雨でのびた稲刈りであったので、朝からワクワクしているのが表情から伝わってきた。田んぼにつくとまず生き物調査をした。6月にしたときとは違う生き物がいることや、小さな見たこともない生き物がいることに驚いているようだった。その後、地域の方々の協力を得て、稲刈りがスタートした。数日続いた雨で地面は少しぬかるんでいたが、子どもたちは稲刈りに夢中だった。初めは鎌の使い方に慣れず、ゆっくりと少しずつ稲を刈っていたが、徐々に慣れてくると手際よくこなしていた。

○ おにぎり作り 11月12日

公民館でおにぎり作りをした。子どもたちは、自分で田植えと稲刈りをしたお米だったので、ひとつぶひとつぶ大切にこぼさないようにお米を洗った。そして炊いている間は学校に戻ったが、「炊けているかな？」とワクワクそわそわしていた。炊きあがると、いよいよおにぎり作り。みんなホカホカのご飯と格闘しながら一生懸命にぎっていた。そして、手伝っていただいたボランティアの皆さんがびっくりするほどきれいに出来上がった。それを見て、「はやく食べたい！」という声も聞こえてきた。他の学年にも、うれしそうに配っていた。自分たちでにぎったおにぎりは想像以上においしいようだった。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）